私たちが見る大日本植民地帝国 - 70 年の時を超えて

Japan's Colonial Empire Re-Examined: 70 Years after the Demise

山田若央*、池野里彩*、石野里歩**、井上百佳**、海上弥生**、朴秀珍**、小代有希子**

Wakao Yamada*, Lisa Ikeno*, Riho Ishino**, Momoka Inoue**, Yayoi Kaijo**, SujinPark***, YukikoKoshiro**

*日本大学国際関係学部国際政策学科，**日本大学国際関係学部国際教養学科，

E-mail　koshiro.yukiko@nihon-u.ac.jp

【本研究の主旨】

日本の植民地統治には良い面も悪い面もあったと名言できるほど、私たちはその歴史を知らない。日本支配のもと近代化政策は行われたが、植民地の人々は差別を受けたので、日本人に対して複雑な心境を持っていることは間違いなく、戦後七十年を経た今でも、親日・反日感情が残っている。日本統治の是非を判断する以前の問題として、植民地支配に関してよく知られている「事実」や「イメージ」に合致しない現象が多くあることに、我がゼミナールは注目した。それらを提起することで植民地の過去を共に再考したい。

【ケース・スタディーズ】

「皇民化」政策のもと植民地の人々に日本化が強制されたと言う。しかし台湾に神道が導入されても、精霊や妖怪など何世紀も伝承されていた民間信仰は消されず、日本の神々と共存していた。朝鮮では日本風の名前を名乗るべく「創氏改名」政策が導入されたが、同時に日本食など生活文化様式を受け入れさせる強制はなかった。一方満州国に暮らしていた白系ロシア人に「日本化」政策は及ばず、むしろ彼らはバレエやクラシック音楽など西欧文化を日本人に教える教師的存在だった。日本文化浸透の度合いは再考の余地がある。日本の植民地支配について、第三者を通して考えることも重要だ。アメリカは日本の統治を野蛮と批判したが、フィリピン・グアム統治においては自らの言語・宗教・価値観の受容を強制し、戦後のサイパンでもそうした。太平洋戦争でサイパン島のチャモロ人やカロリニア人は玉砕せず米軍に投降した人々が大半だったが、今日サイパンは親日的だ。日本統治時代樺太に移住させられた朝鮮人は多くが戦後残留を余儀なくされ、ソ連統治下で彼らはソ連風価値観の受け入れを強制された。日本植民地帝国のその後を追って、＜日本帝国の崩壊＝解放＞ではなかった側面も世界史の文脈から必要がある。

【期待される分析と考察】

植民地の過去の見方は、どんどん多国籍的に多角的にする必要がある。「過去を賛美」するのでもその「真逆」でもない視点で過去を考える必要がある。 様々な事実を掘り起こし、複数の視点から、これまで考えてもいなかった側面から日本植民地の姿を掘り起こすことで、私たちの世代と日本に支配された人々の子孫との未来につながる理解を促進したい。